

一般住民における未治療高血圧者の関連要因：ISSA-CKD研究

藤居 貴子

福岡大学医学部 衛生・公衆衛生学教室/滋賀医科大学 NCD疫学研究センター

【背景】 高血圧は脳心血管病の強力な危険因子で、本邦における高血圧有病者数は4300万人、うち1850万人が未治療高血圧者と推計されており大きな健康課題となっている。

【研究目的】 一般住民の高血圧未治療者の関連要因を明らかにする。

【研究方法】 長崎県壱岐市で2008-2019年度に特定健診を受診した30-74歳までの住民7882人の初回受診データをベースラインとし分析した。未治療高血圧者の定義は、血圧140/90 mmHg以上かつ、降圧薬を服用していない者とし、統計解析は、高血圧者を従属変数とし、独立変数を年齢、性別、喫煙、飲酒、運動習慣、歩行速度、肥満、腹囲、糖尿病、脂質異常症とし、多変量ロジスティック回帰分析を行った。

【結果】 高血圧者は3697名、うち未治療高血圧者は1290名（34.9%）であった。有意な関連を認めた主な要因は、年齢65歳未満55.7%、多変量調整オッズ比1.77（95%CI 1.53-2.07）、肥満なし61.9%、オッズ比1.29（95%CI 1.10-1.50）、糖尿病なし89.5%、オッズ比2.20（95%CI 1.74-2.80）、遅い歩行速度58.8%、オッズ比1.28（95%CI 1.10-1.50）であった。

【結論】 未治療高血圧者は、若年層、基礎疾患や肥満がない者に有意な関連を認めた。これまで一般的に健康意識が高いとされている集団に対しても新たな血圧管理介入の必要性および簡易な評価指標として歩行速度の有用性が示唆された。